

2010 国際大会への日本チーム選手選考規定案

1. 国際大会への日本チーム選手選考は日本ランキングと主催者の選考基準に合わせて行われる。選考基準が主催者により設定されない場合は、日本チーム選手選考は原則として当該国際大会の開催される前年度のワールドポイント(オープンクラス)の100%と前々年度のワールドポイント(オープンクラス)の50%の合計によりランキングをつけ、その上位から順に選考する。ただし、当該国際大会の開催される前年度ナショナルポイントランキング(オープンクラス)1位の者は当該国際大会のチームサイズが2+1以下であった場合は、補欠ランキングの第1位とし、チームサイズが3+1以上であった場合は優先的に選考される。
2. ワールドポイントランキング(オープンクラス)に計上できる国際大会は FAI 公認世界選手権、FAI 公認大陸選手権、PWCA 公認ワールドカップ(本大会のみとし、プレあるいはセレクションツアーなどは含まない) および FAI カテゴリー2以上の国際大会とする。また、海外での大会をポイントに計上したい選手は原則として大会終了後1ヶ月以内に JHF パラグライダー競技委員会までポイント計算に必要な書類(選手全員フルネームと各タスクの成績の記載されたオフィシャルファイナルリザルト)を提出する。
3. 国際大会のポイント計算に当たって：
 - a) 世界選手権、ヨーロッパ選手権、ワールドカップスーパーファイナルの場合は
$$N = 5060 - (\text{本人の大会順位})$$
ただし、1位の場合は $N = 5060$ とする。また、 $S = 100$ とする。
従ってポイント $= 2 \times \{5060 - (\text{本人の大会順位})\} \times (1 + R \times 5/100)$ となる。
ここで $R = (\text{成立したタスク本数} - 1)$ とし、最大値は3とする
説明：昨年度からワールドカップにスーパーファイナルが設定された。ポイント計算式に1部欠落部分があったのを修正。また、これまでの世界選手権の結果から、世界選手権で30位に入ったら、日本のJリーグ大会のトップになったよりポイントが多くても妥当と判断する。Rとして、Jリーグのように大会で成立したタスクのディクオリティの合計値にしないのは、ディクオリティを使用しない大会があることを考慮した。
 - b) ワールドカップ(ヨーロッパラウンド)の場合は
$$N = 5060 - (\text{本人の大会順位})$$
ただし、1位の場合は $N = 5060$ とする。また、Sはジャパンリーグ規定1.8により求める(上限を100とする)。
従ってポイント $= \{60 - (\text{本人の順位})\} \times (1 + S/100) \times (1 + R \times 5/100)$ となる。
ここで $R = (\text{成立したタスク本数} - 1)$ とし、最大値は3とする
 - c) その他の国際大会はジャパンリーグ規定の計算式1.8.2に準ずる
ただし、 $R = (\text{大会での成立本数} - 1)$ で最大値は3とする。
4. その他の要件：
 - a) JHF フライヤー登録が有効であること。
 - b) 理事会の承認を受けること。